

## 第220回 「元気に百歳」クラブ・俳句サロン「道草」の句会開催

気温の寒暖が激しく上下し、晴れているかと思えば雨が降り、雷が鳴り始めます。時には雹まで降り出す始末です。四月というのは、こんなに気象変化の激しい季節だったでしょうか。それとも老齢による免疫性の弱化、あるいは神経の鈍化で、身体が対応できなくなってきたのでしょうか。

少し間延びしたニュースになりますが、WBC野球のこと、我が侍ジャパンは見事に優勝しました。栗山監督、ダルビッシュ選手はじめ大谷選手、吉田選手、村上選手の活躍は、テレビ放送でも言っていましたように、まるで漫画の本を見るようなドラマチックな場面を見せてくれました。侍ジャパンの活躍は爽やかでした。

今やNPB野球もMLB野球も、リーグ戦が始まっていますが、選手たちが以前よりも身近に感じ、野球ファンの人気も上昇しているように見受けられます。選手たちはますます精進し、練習に励み、己を磨いて欲しいと思います。

さて、4月「道草」句会ですが、通信句会＋リアル句会の締めは、4月14日（金）に開催されました。いつものように「新橋ばる一ん」202号室に、下述の12名の方が集まって、選句発表会という形で進行しました。選句された優秀句と、さらにその中から選ばれた天賞句並びに最多得票句（☆印）賞を下述します。

今月の兼題

兼題1「夜桜」

兼題2「春の雲」

兼題3「当季雑詠＝春＝」

今月の投句参加（17名）

芦川創風さん、板倉歌多音さん、太田一光さん、奥田和感さん、金田月草さん、君塚明峰さん、木村栄女さん、坂上まさあきさん、高瀬荻女さん、辻 柴楽さん、手嶋錦流さん、中島憧岳さん、原 晶如さん、船戸清助さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、芦尾白然。

リアル句会への参加（12名）

創風さん、一光さん、和感さん、月草さん、明峰さん、荻女さん、柴楽さん、錦流さん、晶如さん、傘吉さん、多佳さん、白然。

今月の優秀句と天賞句

兼題1.「夜桜」

◎『夜桜や枝の隙より月も見ゆ』	月草	天2㊄5
◎『咲き満ちて夜桜静かに吐息せり』	明峰	天1☆7
◎『舞ひ散るや枝垂れ夜桜高台寺』	傘吉	天1㊄5
◎『初めての夜桜に酔ふ池の端』	柴楽	㊄6

兼題2.「春の雲」

◎『下校時の軽きペダルや春の雲』	栄女	天3㊄7
◎『大仏や螺髪の上の春の雲』	明峰	天2☆9
◎『ふんわりとふわり何処へ春の雲』	歌多音	天2㊄7
◎『春の雲祖母の読経を聞くやうな』	まさあき	天1㊄2
◎『くちびるに夫の愛称春の雲』	荻女	天1㊄2
◎『ゆるやかな古墳の丘の春の雲』	晶如	☆9
◎『病得てひねもす空よ春の雲』	多佳	㊄5

兼題3. 「当季雑詠 (=仲春=)」

◎『卓袱台の桜一片拭き愛しむ』	傘吉	天3☆7
◎『朧月歩幅小さくなりにけり』	多佳	天1☆7
◎『園児らに空いつぱいの桜かな』	明峰	天1㊦3
◎『逝きし師を見送る先は春の雨』	歌多音	㊦5
◎『あの人もこのひとも逝き春は去く』	まさあき	㊦5

兼題1では、月草さんの句「夜桜や枝の隙(ひま)より月も見ゆ」が、天賞二つを獲得しました。夜桜見物の1シーン、どこかで出会った景だと思われます。ただ、月は秋の季語であり、季重なり句です。しかもこの句では、月が重要な役割を果たしています。もう一工夫する必要があると思われます。次に明峰さんの句「咲き満ちて夜桜静かに吐息せり」が、天賞一つと最多得票賞(☆印)を獲得しました。豊満な桜満開の夜です。この句を夜桜の側から見てみますと、満ち足りたひとときを静かに過ごしている景です。下五の「吐息」は、如何でしょうか。よろしいでしょうか。

次に傘吉さんの句「舞ひ散るや枝垂れ夜桜高台寺」が、天賞一つを獲得しました。何ともリズムの良い句ですね。中七から下五にかけての「枝垂れ夜桜高台寺」が絶妙です。見物に出かけてみたくなりますね。次の柴楽さんの句「初めての夜桜に酔ふ池の端」は、賞は付きませんでした。高得票を獲得しました。中七の「夜桜に酔ふ」で、一段と艶めかしく感ずる句になりました。俳句は「多元、多解の曖昧さを持つ詩である」と言われますが、この句は読者に多解させる感覚を秘めているようです。

兼題2では、栄女さんの句「下校時の軽きペダルや春の雲」が、天賞三つと高得票を獲得しました。自転車通学の高校生たちの自転車を漕ぐかろやかさが、読者の琴線をかき鳴らしました。句評には映画「青い山脈」の杉葉子が演ずる寺沢新子まで出て来て、懐かしく当時を思い出し、元気を貰いました。因みに映画「青い山脈」の封切り時は、小生などまだ小学生でした。次に明峰さんの句「大仏や螺髪の上の春の雲」が、天賞二つと最多得票賞(☆印)を獲得しました。上五で「大仏や」と切れを入れ、中七の「螺髪の上の」と、具体的な事象として読者の視神経に預け、下五に「春の雲」と季語を配して主役に立てています。模範的な句の構成ではないでしょうか。

次に歌多音さんの句「ふんわりとふわり何処へ春の雲」が、天賞二つと高得票を獲得しました。「おーい、雲よ。何処へ行くの」と、「春の雲」にとっては呼びかけられている気がするのではないでしょうか。このゆったりとした表現が、読者の共感、好感を貰ったと思われる。気分が爽快になる佳句です。次に、まさあきさんの句「春の雲祖母の読経を聞くやうな」が、天賞一つを獲得しました。春の雲を祖母の読経に喩えるとは……。まさしくゆったりとした、まるやかな読経ではなかったでしょうか。静かな故郷の春の一日が浮かんで参ります。お祖母さんの読経に嬉しさまで感じます。

次に荻女さんの句「くちびるに夫の愛称春の雲」が、天賞一つを獲得しました。春の朝のこと、窓を開けると青空が広がり、春の雲が浮かんでいる。気分爽快、居ない夫に、つい愛称で「お早う」と呼びかける……。如何でしょうか、こんな1シーンが脳細胞を支配しました。次に天賞は付きませんでした。晶如さんの句「ゆるやかな古墳の丘の春の雲」が、最多得票賞(☆印)を獲得しました。古墳というと、私たちは3年半前になるでしょうか、行田市の古墳群に吟行をしました。上五、中七にある「ゆるやかな古墳の丘」と聞けば、行田市の古墳を思い浮かべます。春の雲がはっきりと見えてきました。

賞には及びませんでした。森田さんの句「病得てひねもす空よ春の雲」が、高得票を獲得しました。病に臥せったご自身の体験談を句にされましたが、中七、下五で「ひねもす空よ春の雲」と呼びかけられた語調が、読者の胸に突き刺さりました。

兼題3では、傘吉さんの句「卓袱台の桜一片拭き愛しむ」が、天賞三つと最多得票賞(☆

印) を獲得しました。句会でも「卓袱台(ちゃぶだい)とは、昭和だねえ・・・」と、話題になりましたが、誰かが「ちょっと前までは、こういうときには明治だねえ」と言ったものだと合の手が入り、笑いが弾けました。そう言われれば身に覚えのあることです。それはともかく、中七の「桜一片(さくらひとひら)が綺麗ですね」と、誰かが・・・。次に森田多佳さんの句「朧月歩幅小さくなりけり」が、天賞一つと最多得票賞(☆印)を獲得しました。これは私たち仲間の多くが、日頃感じていることではないでしょうか。まるで老いた印のように、歩く歩幅が小さくなってきています。季語の「朧月」断然光る句になりました。頑張りましょう。

次は明峰さんの句「園児らに空いつぱいの桜かな」が、天賞一つを獲得しました。並ぶ満開の枝のもとでは、「小さい園児らにとっては、木の下ではなく、空いっぱいに見えるものです」という言葉に、大きく首肯しました。小さい紳士淑女諸君！空いつぱいの桜を満喫して下さい。次に賞はいただけませんでした。歌多音さんの句「逝きし師を見送る先は春の雨」が、高得票句になりました。ご会葬の席上、故道人先生の奥様は、「主人は雨男でした」と。そう言えば、先生の句の中に「雨欲しや狭庭の蔭の細きこと」が、ありました。心優しい先生でした。

もう一句、同じく賞には届きませんでした。まさあきさんの句「あの人もこのひとも逝き春は去(ゆ)く」が、高得票を獲得しました。私たちがこの2月、3月に体感した二つの哀しいご逝去を詠まれた句です。住田道人先生、久保竹里さん、改めまして謹んでお二方様のご冥福をお祈り申し上げます。

このところ句会で、提出された「ひと言」を討議する時間が増えてきました。わからないところを討議すると言うのは、本当に大切だと思います。この討議アワーを通じて、「天賞に推挙する句は、声を出して読むこと」。「わからないことは辞書で調べ、一度、書いてみること」・・・俳句がますます面白くなってきました。

また創風さんが、”AI“に俳句を詠ませたらと、テストしていただいたようで、その結果を話して下さいました。まだ「季重なり」など、問題点もあるようですが、今に切迫してくることはあると思います。この辺りの学習も、そんなに遠い未来の話ではないと思われま

5月はまた、皆さん元気にお会いしましょう。

(白然記)